

わたしの修習時代

紀尾井町：1948－70

湯島：1971－93

和光：1994－

68期(2014/平成26年)

多摩の自然

私は実務修習の約8か月間を立川(多摩)で過ごした。修習時代は教官や指導担当をはじめ、先輩方、事務局の方々にもこれでもかというほど甘やかされ、かわいがってもらった。また、修習の仲間とは毎日楽しい日々を過ごした。

今でも仕事で立川の裁判所や検察庁に行くと、何とも言えない懐かしく温かい気持ちになる。

今回、私の修習時代について記事を書くことになり、記憶を振り返ると、一番鮮明に思い出すのは多摩の豊かな自然である。

ご存知の方も多いと思うが、多摩には、立川の昭和記念公園をはじめ、多くの山々もあり、都心に比べ自然に恵まれた土地である。

私が立川修習生であった2015年からすでに6年程経過している。

この6年間で立川の街は大きく発展を遂げ、その様子は変わってきた。

一番大きく変化したところは、立川駅の北口にグリーンスプリングスという大きな商業施設が建設されたことである。

このグリーンスプリングスが建っている広大な敷地は、私の修習時代には、草の生えた空き地であり、10匹ほどのヤギが放牧されていた。ヤギたちにはそれぞれ名前が付けられ、皆空き地の草をもくもくと食べて除草作業を頑張っていた。

この土地は、立川駅から立川の裁判所や検察庁へ歩いていく道の途中にあるため、私は毎日この道を歩く度、除草作業をひたむきに頑張っているヤギたちの様子に癒されていた。

弁護修習では、指導担当弁護士の後ろについて、いろいろな場所に行った。

中でもよく覚えているのは、都市計画に関する案件で、道路予定地の現地調査をしたことである。今思うと、私の指導担当弁護士は、現地調査によく出かけていた。弁護士はこんなに時間と労力をかけて調査をするものなのかと驚くとともに、現地調査をすることの大切さを実感した。

会員 寺澤 春香 (68期)



同時に、多摩の住宅街にこれほどまでに自然が多く残っているのかと、周りの景色に興味津々で、遠足気分で歩いたことをよく覚えている。

修習同期の指導担当弁護士が、私たち修習生を、多摩の陣馬山という山に山菜採りに連れて行ってくれたのも忘れ難い思い出である。

皆で山道をひたすら登り、山菜を採り、採りたての山菜を天ぷらなどにして食べた。

山には、初めて見る植物も多くあり、山菜は想像以上に美味しかったことをよく覚えている。

私はこのとき初めて「マムシ草」という草に実がなっている様子を見た。球体恐怖症の気がある私は、その見た目にショックを受けたことをよく覚えている。

今でも怖いもの見たさで「マムシ草」をグーグルで画像検索することがあるが、自然が作る造形の多様性には驚かされる。

こうして修習時代を振り返ると、記憶というものに一番刻まれているのは、五感の記憶であることに気付かされる。とりわけ、自然に関する五感の記憶は最も印象が強いものなのではないか。

少なくとも私の記憶には自然を五感で感じた記憶が最も残るらしい(昔、大学の授業で、海外文学には人物の容姿に関する記述が多いのに対し、日本文学では自然の情景に関する記述が多いということを聞いたことがある。もしかしたら日本においては、より自然を五感で感じやすいのかもしれない)。

冒頭に紹介した「グリーンスプリングス」は、立川の自然と賑わいを調和させることをコンセプトとしていることである。多摩地区には、多摩の地に残る豊かな自然や動植物をこれからも大切にしながら、元気に発展していった欲しい。

そして、こうして記憶を振り返るときに思い出す多摩の自然と、多摩の自然に触れ合う機会を与えてくれた方々に深く感謝する。